

## 武蔵野大学国際総合研究所「第38回 EU 研究会」議事録

- 開催日：2018年7月10日
- 会場：武蔵野大学有明キャンパス会議室
- 基調報告：伊藤 武（東京大学大学院総合文化研究科教授）
- テーマ：「イタリア総選挙と EU 問題」

### 基調報告：「イタリア総選挙と EU 問題」

#### 1. 最近の情勢と分析視角

- ・2018年3月の総選挙後3ヶ月間政権が成立せず、6月にコンティ政権が成立した。
- ・五つ星運動と同盟の二党の連立。現代の先進国では初のポピュリスト政権。
- ・財政問題（ベーシックインカム等支出拡大策）や移民難民問題で EU 批判が争点化。

#### 2. 2018年総選挙結果とその意義

- ・イタリアは戦後、二大勢力による政権交代可能な民主主義を目指し、長らくそれに成功していたが、前回2013年の総選挙で五つ星運動が大躍進し、三大勢力が鼎立することになった。
- ・その理由は、2011年に国債がデフォルト危機に陥り、モンティ政権下で大規模な緊縮政策と経済再建が始まったが、その社会的インパクトは非常に大きく、モンティ政権だけでなくそうした事態をもたらした既存政党への批判が高まったことだと考えられる。
- ・前回2013年の総選挙では、中道左派、中道右派、五つ星運動という三大勢力のうち、五つ星運動を排除した左右のそれぞれ穏健な勢力で大連立を組んだが、今回はそれらが急速に議席を減らし、五つ星運動と同盟という異端同士で連立を組み、その勢力が5割を超える事態となった。
- ・特に中道左派である民主党の凋落は著しく、戦後初めて2割を切る結果になった。
- ・同盟はもともとは北部同盟という名前で北部の地域政党だったが、今回党名を変え、南部にも支持を広げている。移民難民に対する強硬さへの支持がどれだけ大きいかを物語っている。当初は中道右派のフォルツァ・イタリアから票を奪っていたが、次第に五つ星運動からも支持者を引きはがしている。選挙時の一時的な盛り上がりではない。
- ・五つ星運動は経済的に苦境の南部で大量得票を稼いでいる。投票動機は経済

政策で、特に最低所得補償に支持が集まっている。五つ星運動は若者が支持しているとよく言われるが、実際は全世代に満遍なく支持を獲得している。

### 3. 政策争点と EU 問題との関連

・イタリアに流入する移民難民は伝統的には限定的だったが、近年急速に増加している。2016/17 年以降ヨーロッパ全体では減少しているにも拘らず、庇護申請者はイタリアに偏重している。

・「法と秩序」問題への関心が急上昇し、それをメディアが煽る。

・それが外国人に慣れていない非大都市圏で同盟の支持上昇をもたらしているのではないか。大都市圏では中道左派・中道右派の穏健勢力が崩れていないので、移民難民の流入数というよりも、それがどう周辺に散っていったかという視点が必要。

### 4. EU 批判

・移民難民問題だけでなく、財政緊縮で社会保障が大幅にカットされたことから EU への批判的な意見が非常に強い。民主党がずっと親 EU 路線をとってきた財政緊縮に協力してきたように見られ、従来の左派支持層が今回は五つ星運動や同盟に支持を移してしまった。

・イタリアはかつて親 EU の代表国だったが、今では世論調査をすると EU 離脱派が 34%と、ギリシャに次いで多い。

・EU 問題は国外では注目されているが、イタリア国内では主要争点ではない。親 EU を謳うと選挙で負けることがわかっているので、どの政党も懐疑的な姿勢をとるしかなく分断争点にはならない。総論賛成で、各論は程度問題といったところ。

## 質疑応答およびディスカッション

■ 外から見ているとサルヴィーニばかり目立っていて、五つ星運動は陰に隠れてしまっている印象を受ける。

やはり政治的な駆け引きの巧拙の差が出てしまったと言われている。サルヴィーニはボロボロになった政党を立て直し、熾烈なリーダーシップを発揮し、人気がある。特にこの選挙から 3 ヶ月の期間で移民難民問題を非常にうまく利用して党の支持を伸ばしている。

それに対して五つ星運動は、グリッロやカッサレジオといった、議員ではない執行部により選ばれた都合の良い操り人形だというイメージがどうしても抜け

ない。五つ星運動は穏健な政党として、経済再生や格差是正に取り組む姿勢を見せて盛り返そうとしているが、やはりアピール力が弱い。

■ **新政権の意思決定はどうなっていくのか？副首相であるサルヴィーニはどれくらい影響力があるか？**

コンティ首相には力がなく、基本的には副首相格で入っているディマイオとサルヴィーニの両党首が最も重要。ただ同盟はサルヴィーニがしっかり押さえているが、五つ星運動は先述の通り政治家ではない執行部の力が強いので、ディマイオの発言力はどうしても下がってしまっている。

■ **財政を考えると、二党の公約すべてを実現するのは不可能。現実路線に転じる中で、二党の公約のどちらを優先していくと考えられるか？**

同盟が最重視しているのは難民移民問題で、経済政策はそれほど重視しておらず、弱者に公共支出を出すという五つ星運動の政策にもサルヴィーニは反対していない。ただ最低所得補償がうまくいけば五つ星運動が盛り返すきっかけになるので、政策的には反対ではなくても、政治的に反対する、もしくは成功させないようにする行動をとる可能性はある。